



糸原 保
奥出雲町八川出身
1967年2月生まれ
1987年島根県庁入
庁後、土木部を中心
に、農林水産部、国土
労働部等に勤務。国土
交通省中国地方整備
局派遣、島根県浜田県
土整備事務所土木工
務部長、島根県土木部
都市計画課長、島根県
雲南県土整備事務所
長などを経て、202
2年7月島根県庁退職

任期満了に伴い執行された奥出雲町長選挙において、無投票で初当選した糸原町長が9月21日、奥出雲町役場に初登庁しました。
9月28日に開会した、令和4年第3回奥出雲町議会定例会で、糸原町長が所信表明を行いました。(紙面の都合上、抜粋して掲載しています。)

施策展開の基本方針

私たちの奥出雲町は神話の舞台でもあり、今も操業を続けるたたら製鉄や、農林業や地域産業、全国に誇る歴史文化、食や自然、温泉、若い世代が頑張ってくれているホッケーなど、地域資源が豊富ならばいい町です。
これまでも、様々な政策が展開されており、教育や町づくり、産業振興、医療、福祉等、今やらなければならぬ喫緊の課題が迫ってきております。町民の皆様が身をもって感じておられるように、すべての課題の根っこの部分は、人口減少

とつながっております。こうした課題に対しては、行政だけでは到底、対処していくことはできず、町民のすべての皆様と協働し、総力戦で向かっていかなくてはなりません。

私は、総力戦のまちづくりとして、「①子育て教育の充実と奥出雲を担う人づくり」「②活力ある産業の振興」「③安心して暮らせる生活基盤の確保とまちづくり」「④奥出雲の暮らしが幸せだと実感できる生活環境づくり」の4つのまちづくりを目指します。

その実現のためには、私自身が常に現場感覚を持って、職員とともに町民に寄り添い、また町民と一緒になって地域資源を最大限活用し、少ない財源に魂をこめて、使命感、情熱、全集中の政治姿勢をもって町政運営に邁進する所存です。

①子育て、教育の充実と奥出雲を担う人づくり

(学校の再編関係について)
懸案事項となっております仁多地域

(木次線対策)

木次線対策については、7月に、県や沿線市町の要望が一定程度反映され、存続協議について国が主体的に関与するとの国の検討会の提言がなされました。制度の詳細や運用等は現時点では不明であり、県とともに、国やJRの動向に注視しつつ、廃止ありきではなく、木次線の乗客をどう増やせるかを基本に、町民と一体となった積極的な鉄道存続への取り組みが必要と考えております。

④奥出雲の暮らしが幸せだと実感できる生活環境づくり

(地域包括ケア)
町内には、地域で頑張っていたいただいている開業医の皆様や、奥出雲病院や二つの福祉会、さらに本町の特徴として、次世代を担うリハビリ人材を教育する島根リハビリテーション学院があります。こうした機関にさらに連携を深めていただき、本町の地域包括ケアシステムを他の地域に誇れる、満足度の高いものにしていく必要があります。デジタル技術の導入や、人材確保も含めて取り組むべきと考えております。

(文化振興)

奥出雲の文化を守る、それは私たちの誇りを守ることであり、奥出雲で生きるこの意味、奥出雲を大事にしていくことを養っていくことであると思っております。文化や歴史、それを伝える博物館美術館の活性化、文化を活かした国内外の交流などに力を入れてまいります。そのため、観光施策の事業とも連動させ、町民や域外の皆様を巻き込んだ取り組みにしてまいります。

(スポーツの推進)

先般、横田高校男子、横田中学校男子ホッケー部は全国大会優勝という輝かしい成績を残され、町民に元気を与えてくれました。本町のスポーツ振興は大きな

統合小学校の建設地については、これまでの検討経過を踏まえ、議会や関係者の皆様の意見を私自身が聞きするとともに、統合案について改めて私自身で確認し、方針を提案できるようにしたいと考えております。

(教育の魅力化)

再編にご理解、ご協力いただきました町民の皆様の期待に応えられるよう、再編の効果を最大限に活かし、他の自治体・地域に負けない奥出雲らしい教育を、幼児期、小学生のころからしっかりと力を入れていきたいと考えております。

(子育て環境の充実)

子育て、教育の充実と奥出雲を担う人づくりの中で、重要な施策となりますのが、子育て世代の負担の軽減です。国が進める施策に合わせ、さらに町として、保育料の全世帯無料化や医療費等の負担についても、総合的に検討を進め、可能なことから早急に実施してまいります。

(女性活躍の推進)

現在、第3次奥出雲町男女共同参画計画に基づき、様々な分野での女性の活躍を促進しておりますが、今後、女性の各種委員への積極的参加や政策方針決定過程への参画などを一層、力強く進めてまいります。

(関係人口の創出及び定住促進)

地域に多様に関わる「関係人口」の創出に向け、都市部から奥出雲へ向かう新たな人の流れを拡大したいと考えております。これらの皆様と町内のUITアンの皆様との交流を活発化させ、地域活性化や地域課題の解決など地域づくりの担い手として、そして将来的には移住につながるよう施策を推進してまいります。

②活力ある産業の振興

(産業振興)
人口減少は町内の商業や工業、農林業にも大きな影響を及ぼしております。商

成果を挙げております。

一方で、国は教員の働き方改革の二環として令和7年度末までを目途に、休日の運動部活動の段階的な地域移行を図る方針を示しており、受け皿となる民間のスポーツ団体等が不足している本町にとっては、国の提言通りの移行は非常に困難な状況にあります。学校の魅力化とも密接に関連することから、組織や人員補強等を来年度に向け総合的に検討してまいります。

また、2030年には島根県で国民スポーツ大会「島根かみあり国スポ・障スポ」の開催が予定されており、今後、実施に向けた準備を島根県と連携し、二体となって進めてまいります。

(脱炭素・SDGs)

脱炭素やSDGsといった世界レベルでの取り組みは、奥出雲にとっては有効な施策であり、追い風の部分が多いと感じております。国においても、森林環境譲与税や脱炭素社会に向けたグリーン・トランスフォーメーションの議論が加速されるなど、これも本町にとって良い流れと言えま。こうした国の施策も積極的に活用し、食の安全や、地域内の経済循環の面からも積極的に取り組んでいく考えであります。

財政運営の基本方針

施策を実現させるためには、健全な財政が不可欠であります。令和3年度決算における本町の実質公債費比率は3か年平均で14.8%と対前年度比2.2%上昇し、将来負担比率は130.8%と対前年度比20.5%減少しております。

令和4年度以降は庁舎整備事業の元金償還が本格化するため、継続的な繰り上げ償還を行っていくとともに、今後、統合小学校建設などの大型事業も控えていることから、投資事業の絞り込みが必

工会や町内企業の皆様、農林業を営む皆様と情報交換や連携を図りながら、新たな分野にチャレンジする事業者の支援等、産業の振興を図ってまいります。魅力ある地域資源を活かした地域産業の振興はもとより、奥出雲に立地いただいている誘致企業への後押しなど、雇用の場の確保に努めてまいります。

(農林業の振興)

農林業は奥出雲の重要な産業であり、本町の強みでもあります。現在申請中である、「世界農業遺産」への取り組みによるブランド力の強化や、農商工連携の推進、スマート農業などを活用するとともに、奥出雲の実情に合った農業の振興を検討し、力強く持続可能な農林業農村の振興を進めます。

(観光振興)

奥出雲の観光資源は他の地域に比べて豊富であります。観光をしっかりとした産業にしていきたいために、これまで以上に地域の皆様との協働や各機関との連携が必要であり、町管理施設の指定管理などの検討や、トロッコ列車終了後の「あめつち」の運行を見据えた観光施策も急いでまいります。

日本遺産「出雲國たたら風土記」については、7月25日に重点指定地域に認定されました。今後、文化庁の補助事業を活用して事業を積極的に展開してまいります。

(3セクスの活性化・見直し)

奥出雲の産業とりわけ雇用の大きな部分を担ってきた第3セクターについては、経営が深刻なものが出てきており、喫緊で経営の見直しや、活性化の対応が必要

須となっております。

また、普通交付税の基礎数値となる国勢調査人口の減少などにより、一般財源の減少が見込まれる中、町の貯金であります財政調整基金も減少する傾向にあり、災害対応など緊急な財政措置が必要となる状況にあります。

今後は既存事業、各種補助金等の見直しを行い、少ない財源を必要事業へ集中させるなど、効率的な活用に取り組んでまいります。

勝田町長退任

勝田町長の退任式が9月20日、役場仁多庁舎で行われました。勝田町長は、平成26年9月の就任以来、2期8年にわたり町政にご尽力いただきました。

勝田町長は、任期中の代表的な施策として、債権管理やふるさと応援寄附、地域おこし協力隊の活用、まちひとしごとセンターやみらいと奥出雲の設置、中国地方初の日本農業遺産の認定、三成ホッケー場の整備などを挙げ、「地域活性化にいくらかばかり貢献ができたのではないかと思います。」と述べました。



退任式の後は、多くの町職員に見送られながら、慣れ親しんだ庁舎を後にしました。